



五っ子通信



令和4年11月28日

No. 16

文責：校長酒井

～失敗やトラブルを学びに変える教育～

< ☆ともだち大好き！ ☆学ぶの大好き！ ☆じぶん大好き！ >



村内の先生方をお招きして（教育研究会授業研究会）

11月1日は、本校に村内の約60名の先生方が一堂に会し、玉川村教育研究会授業研究会が開催されました。この日授業を公開したのは、「3年1組」、「4年1組」、「なかよし学級」の3クラス。本校の研究のテーマ「のびのびと表現する子ども」を目指した授業は、たくさんの参観者に囲まれ、最初はやや緊張気味の子ども達もすぐにいつも通り、充実した学習となりました。

3年1組は「算数」。わり算の解き方を、意見を交換しながら進んで見つけ出す学習でしたが、たくさんの友達の意見を参考にしようと、教室を積極的に活動する子どもたちの姿が印象的でした。**4年1組は「道徳」。**数年前より教科となったことでもご理解いただいていますように、学校教育で最も大切にしている学習の一つです。この日は「命の大切さ」について考えるものでしたが、自分の考えを自由に言い合えるクラスの雰囲気は後ろ盾となって、充実した時間となりました。**なかよし学級は「国語」。**2つの学年がそれぞれに授業を進めますが、途中考えを共有したり、上級生が下級生にアドバイスしたりしながら、それぞれの授業のねらいに迫ることができました。

この日、3クラス以外は下校でしたので、授業を行った子どもたちだけが、お弁当を持参しました。改めて、保護者様のご理解とご協力に感謝します。お陰様で、当日参観いただいた教育長様や他校の先生方から、たくさんのお褒めの言葉を頂きました。子ども達はもちろん手前味噌ですが、3人の先生方のここまでの取り組みにも拍手を送りたいと思います。

授業研究会の後の教育講演会も大変興味深い内容でした。

「**習慣化が子どもの可能性を引き出す**」と題して行われた講演は、講師の吉井氏の熱意とユーモアで、あっという間の1時間となりました。その中でも特に「**夢はあきらめない、あきらめるのは自分だ。**」

「**努力は嘘をつくが、努力は人生に嘘をつかない。**」「**そもそも、失敗という言葉自体があり得ない。**」「**育てたように子は育つ！**」等々、珠玉の言葉が心に残りました。考えさせられることが多かっただけでなく、講演の後は勇気も湧いてくるような感覚を持ちました。そして、子どもたちの可能性を引き出す**習慣化は学校だけでは実現しない**ことを改めて感じました。学校、保護者、地域が一体となっこそ、理想とする教育を実現できると強く思いました。

当日は、教職員だけでなく、保護者の方にも参加いただきましたこと感謝申し上げます。



<育てたように子は育つ…>



<各クラスの授業風景>

裏面もご覧ください↓

特設部活動発表会【自転車・合唱】

14日は自転車部が15日は合唱部が、それぞれの部員の保護者様を前に、体育館と音楽室で実に堂々と発表することができました。

初日（14日）は自転車部。ギャラリーから見つめるたくさんの視線感じながら、一人一人全員が演技を披露しました。今年も度予定されていた3度の大会が中止となり、練習の成果を披露する場が閉ざされてしまいました。しかし、立て看板づくりも含め、**自分たちでできることを6年生が中心となり、しっかり取り組んだ1年**でした。4・5年生もきっと後に続くことでしょう。



<全員でピース！>



2日目（15日）は合唱部の発表会。新型コロナウイルス感染症の予防のため、今年度もコンクールへの不参加を判断しましたが、**春から少しずつ練習を重ねてきた子どもたち。何とか発表の場を与えたいと、タイミングを図ってきた指導者たち。**子どもたちも、発表会当日を心待ちにしていました。会場は音楽室、観客は保護者のみなさん。規模こそ小さくなりましたが、子どもたちの思い、指導者の思いは本物です。音楽室全体に清らかな歌声がこだましました。



<3曲の歌声を披露>

どちらも手作りの小さな発表会でしたが、とても心のこもったものとなりました。発表会の後、参観いただいた保護者の皆様の方からねぎらいの言葉をいただきました。これまでの、ご理解とご協力に改めて感謝します。

◇◇ 届いた1枚のはがき ◇◇

11月7日の朝、中学校に行くときの出来事です。

朝の通学通勤時間帯7時20分頃でした。中学校に左折する車、右折する車。そのとき横断歩道に一人の男児が止まり左折の車に「どうぞ」と、手で合図。左折の車は、男児に横断歩道を渡るよう促すと、男児は渡り終え、ドライバーに丁寧に「ありがとう」のお辞儀をしていました。体が大きかったので6年生かと思いました。

朝から、清々しい気持ちになりました。

玉一小の子どもたちが、思いやりのある優しい子どもたちであることを嬉しく思った朝でした。



学校に届いた1枚のはがき。丁寧な文字で、宛名は「玉川第一小学校 酒井校長先生」様、差出人は「高齢者より」となっていました。

嬉しくて、はがきの原文通り全て紹介させていただきました。

はがきを拝読しながら「あの子かな」「この子かな」と想像を巡らしました。（おそらく予想は当たっているでしょう。）

あいさつや言葉遣い、とっさの行動は日々の習慣です。言われてすぐにできることではありません。もちろん学校ではあいさつを励行しますし、正しい行動についても諭します。しかし、それらが身につくには**一定の時間と家庭の協力も必要です。**予想が当たっていれば、その子は普段、数名の同級生と歩いて登校します。友達の間でもあいさつは交わりますし、登校途中で地域の方々ともふれあいます。自然と出たその振る舞いは本物です。

「あいさつは人の心を温かくする」と、子どもたちにはよく話しますが、届いた1枚のはがきで、わたしたちの心も温かくなりました。12月の集会で全校生に紹介したいと考えています。